

■武田麟太郎 小説家。弾圧に抗すべく、西鶴に示唆を得た『市井事もの』一方、『人民文庫』を創刊するが、軍徴用で終焉。

たけだりんたろう

日露戦争始・1904＝ 大阪市南区日本橋で、倉敷出身の巡査武田左二郎の長男に生まれる。母はすみゑ。

日露戦争終・1905＝ 1歳：

弟妹それぞれ3人が誕生し、貧しい家の悲哀を味わって育つ。

大逆事件判決1911＝ 7歳： 南区立平野小学校に入学、

明治天皇没・1912＝ 8歳：

大正政変・・・1913＝ 9歳：

父の転勤で、2度ほど転校する間、漢学に興味を抱き、懷徳堂の講義を熱心に聞く。

ロシア革命・1917＝13歳： 安立小学校を卒業。両親の期待背負って、府立今宮小学校に入学。

藤沢桓夫と生涯の友となり、その父南岳の教えも受け、

「自立すべく電信工養成所に入ろうとするが、父の反対にあって断念、母の愛読する文学を読んで、小説家を志すことを告げた直後、母が急逝。母が挙げた岩野泡鳴の作品をむさぼり読み、習作も試みる。

大暴落・・・1920＝16歳：

原敬首相暗殺1921＝17歳：

水平社結成・1922＝18歳： 卒業。

関東大震災・1923＝19歳：

父の意図で、第三高等学校文科甲類に入学。文学に疑問を抱いて、苦悩の日を送る一方、

「田山花袋を通じて西鶴を知り、永井荷風を愛読、

同人誌『真昼』の創刊に加わり、毎号短文を寄せる。

治安維持法・1925＝21歳：

円本時代始・1926＝22歳：

三高卒業、東京帝大文学部仏文科に進むが、ほとんど教室に出ず、藤沢桓夫らの『辻馬車』の同人に加わり、作品を発表。労働運動にも共鳴するようになる。

金融恐慌・・・1927＝23歳：

『辻馬車』に論文・随筆・小説など発表するうち、大学を除籍され、プロレタリア芸術連盟に参じる。

共産党事件・1928＝24歳：

本所柳島の帝大セツルメントで活動したりしながら、『辻馬車』の発展した『イスクラ』に発表し続け、

世界恐慌・・・1929＝25歳：

＊検挙され拘禁生活も体験。『文芸春秋』に載せて発禁を招いた『暴力』などで、職業作家として認められ、

海軍軍縮条約1930＝26歳：

「『反逆の呂律』ほか多数の作品を発表、文芸年鑑文士録に初めて名が載る。

満州事変・・・1931＝27歳：

さらに観念的傾向を抜け出し、西鶴の方法に示唆を得て、

五一五事件・1932＝28歳：

結婚。「日本三文オペラ」、

国際連盟脱退1933＝29歳：

長男が誕生。「釜ヶ崎」ほか、次々傑作を発表。

帝人疑獄事件1934＝30歳：

「銀座八丁」、

芥川直木賞始1935＝31歳：

＊「一の酉」「市井事」など、いわゆる『市井事もの』に庶民の生活感情を写し出した。当時の左翼運動への弾圧に抗する手法の発見であったとも言える。

二二六事件・1936＝32歳：

「ファシズムの嵐のなかで『人民文庫』を創刊、『散文精神』を唱道して時潮にあらがい、

日中戦争始・1937＝33歳：

次々と創作・発表・刊行等を続けるが、

大政翼賛会・1940＝36歳：

日米開戦・・・1941＝37歳：

阿部知二・北原武夫らとともに、＊陸軍報道班員に徴用され、

・・・1942＝38歳：

ジャワに送られ、宣撫活動。。

この間、「武田麟太郎集」が刊行される

年金+総武装 1944＝40歳：

帰還、「ジャワ更紗」刊行。

敗戦・・・1945＝41歳：

空襲に逢い、妻の実家甲府の寺に疎開するも、再び罹災。敗戦後、神奈川県片瀬に移住し、

新憲法公布・1946＝42歳：

新しい活動に入ろうとする矢先、肝硬変のため、没した。